

平成24年度第3回消費生活eモニターアンケート調査

「かながわ暮らしむき調査」

目 次

第1章 調査の概要	・・・P2
1 調査目的	
2 調査対象	
3 調査方法	
4 調査期間	
5 回答者の属性	
第2章 調査結果	・・・P3
第3章 まとめ	・・・P19

【以下のホームページも是非ご覧ください。】

© かながわの消費生活

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f100548/>

第1章 調査の概要

1 調査目的

県民の暮らしの実態と家計や物価についての意識を把握し、今後の県の消費者行政の参考とするため、「かながわ暮らしむきアンケート調査」を実施しました。なお、この調査は昭和58年度から毎年実施しています。

2 調査方法

ホームページ上でのアンケート調査
前半(18問)・後半(20問)に分け、片方のみ回答した場合も、有効回答として集計しています。

3 調査期間

平成25年1月24日(木)から2月8日(金)まで

4 調査対象

消費生活eモニター 200名 前半回答者：154名 後半回答者：148名

5 回答者の属性

前半	性別	男性	45名	女性	109名	
	年齢	20歳代	11名(男性：3名	女性：8名)		
		30歳代	46名(男性：9名	女性：37名)		
		40歳代	45名(男性：11名	女性：34名)		
		50歳代	19名(男性：6名	女性：13名)		
		60歳代	27名(男性：12名	女性：15名)		
		70歳以上	6名(男性：4名	女性：2名)		
後半		性別	男性	43名	女性	105名
	年齢	20歳代	11名(男性：3名	女性：8名)		
		30歳代	44名(男性：9名	女性：35名)		
		40歳代	45名(男性：11名	女性：34名)		
		50歳代	18名(男性：5名	女性：13名)		
		60歳代	25名(男性：12名	女性：13名)		
		70歳以上	5名(男性：3名	女性：2名)		

第2章 調査結果

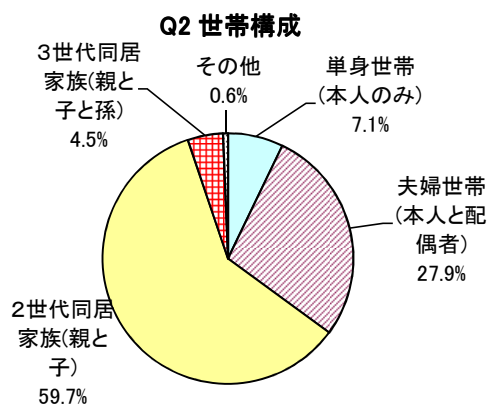
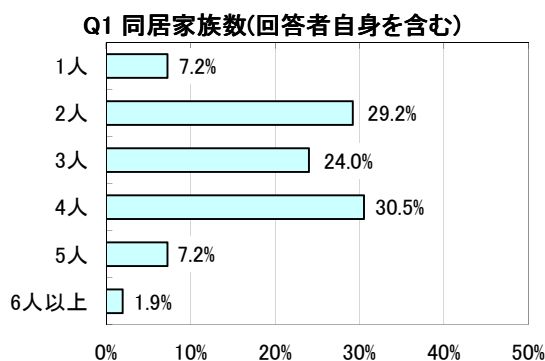
- ・複数回答のある設問では、比率の合計が100を超える場合があります。
- ・無回答がある場合、比率の合計が100に満たない場合があります。

＜アンケート前半＞：回答者154名

1. 回答者の属性

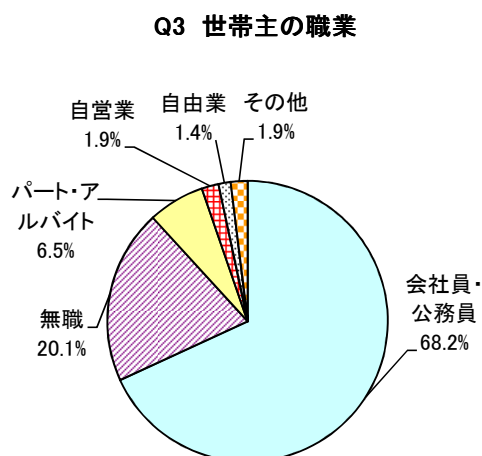
Q1 同居家族 及び Q2 世帯構成

同居家族数は、「4人」が3割を超えて最も多く、次いで「2人」が約3割、「3人」が2割台でした。また、世帯構成は、「2世代同居家族」が約6割で最も多く、次いで「夫婦世帯」が約3割、「単身世帯」「3世代同居家族」は1割未満でした。



Q3 世帯主の職業

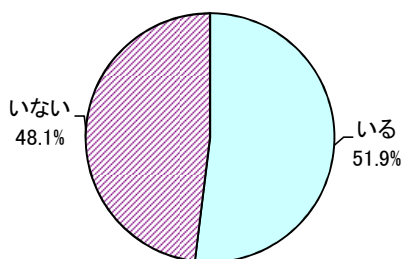
世帯主の職業は、「会社員・公務員」が約7割で最も多く、次いで「無職」が約2割でした。



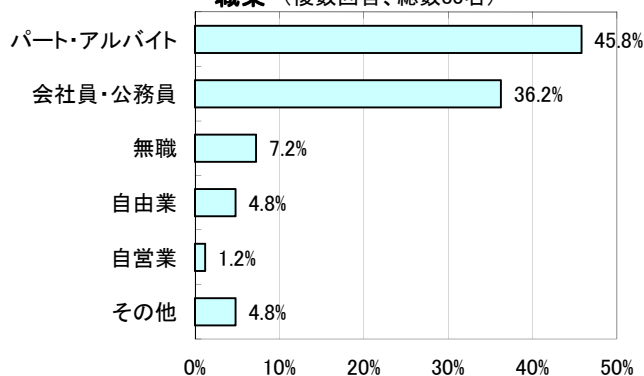
Q4 世帯主以外の就業者の有無 及び Q5 その職業

世帯主以外に収入を得ている人がいる世帯は約5割で、その人の職業は、「パート・アルバイト」が4割台で最も多く、次いで「会社員・公務員」が3割台でした。

Q4 世帯主以外に収入を得ている人の有無



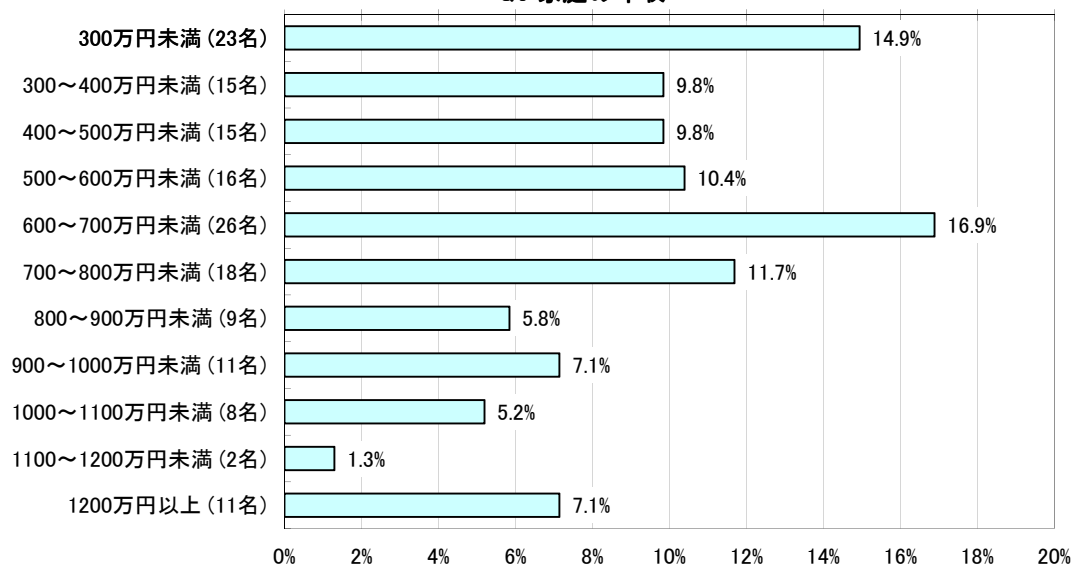
Q5 世帯主以外に収入を得ている人の職業 (複数回答、総数83名)



Q6 家庭の年収

家庭の年収は、「600～700万未満」が16.9%で最も多く、次いで「300万未満」が14.9%、3番目は「700～800万未満」で11.7%となりました。

Q6 家庭の年収

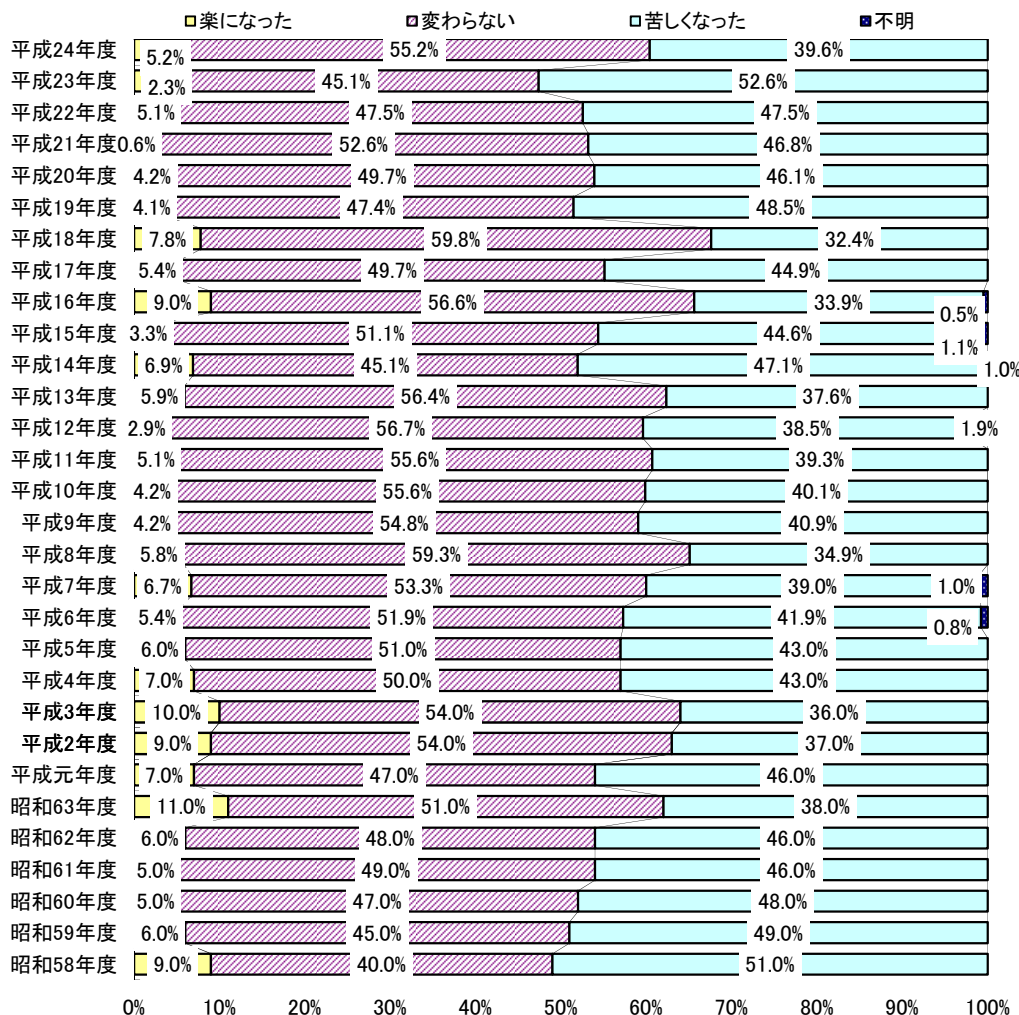


2.暮らしむきと生活意識

Q7 暮らしむきの意識

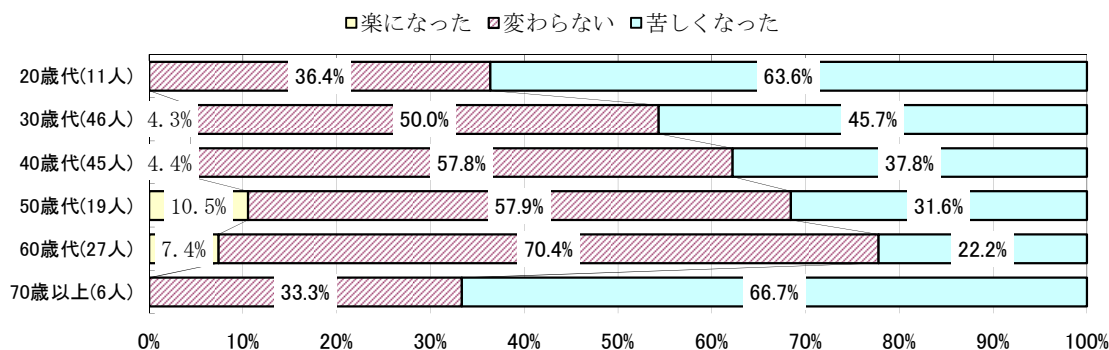
昨年の同時期と比べてご家族の暮らしむきがどうなったかについては、「変わらない」が5割台で最も多い回答でした。一方で「苦しくなった」も約4割でしたが、平成23年度と比べ1割以上減少しました。

Q7-1 暮らし向きの変遷



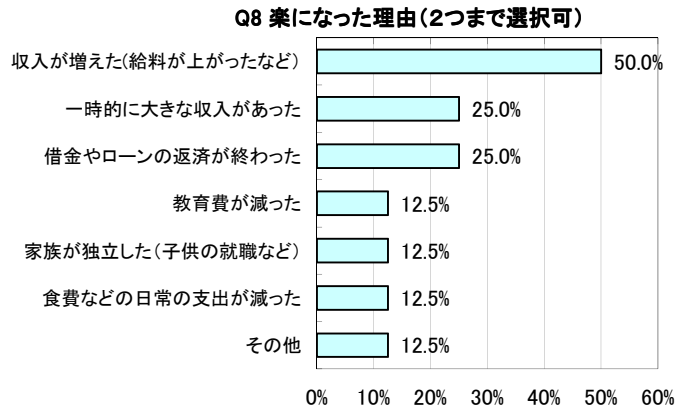
年代別に見ると、70歳以上と20歳代で「苦しくなった」が6割台と高く、「楽になった」を上回りましたが、年代が上がるにつれ、「苦しくなった」の割合が減っていく傾向が見られました。

Q7-2 暮らし向き(年代別)



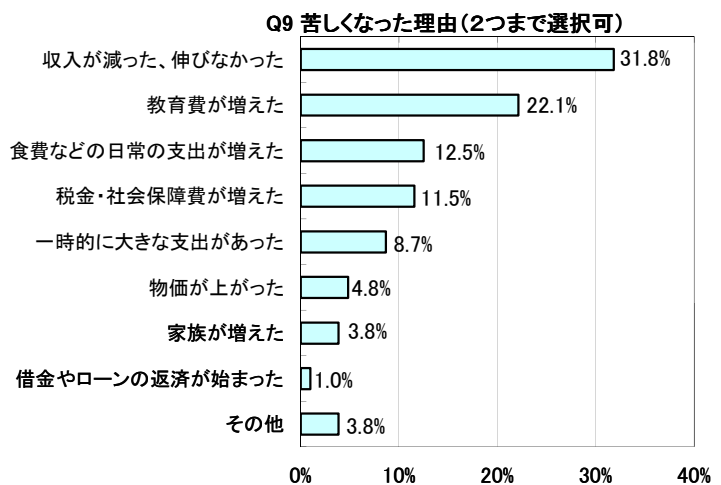
Q8 楽になった主な理由

Q7で「楽になった」と回答した8名に理由をたずねたところ、「収入が増えた(給料が上がったなど)」が最も多くなっています。



Q9 苦しくなった主な理由

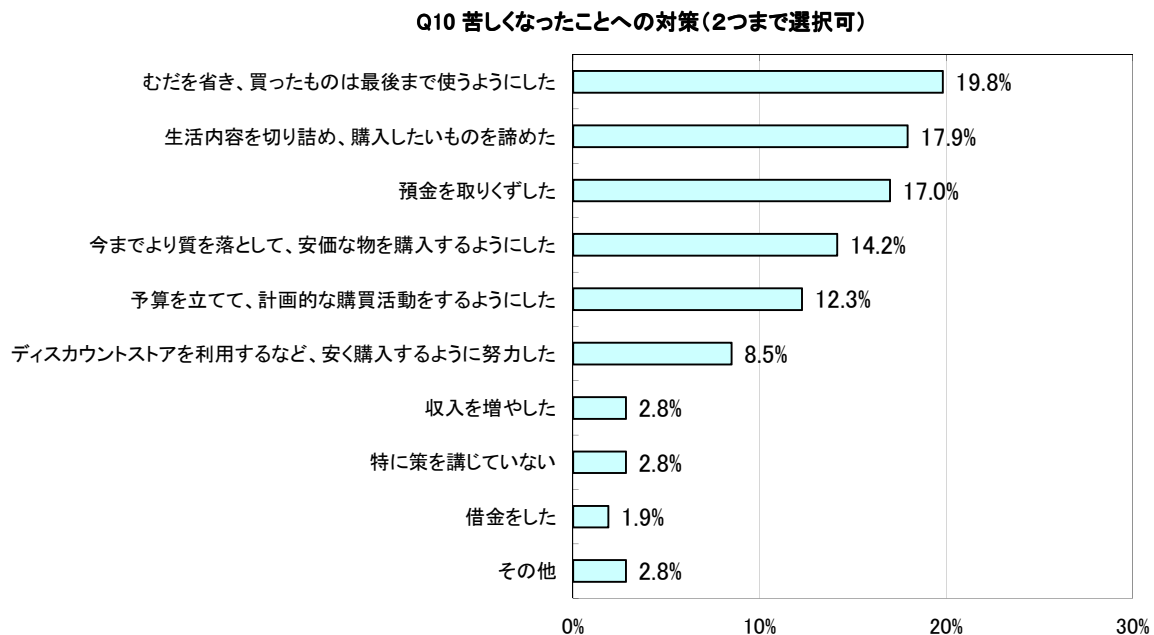
Q7で「苦しくなった」と回答した61名に理由をたずねたところ、「収入が減った、伸びなかった」が3割台で最も多く、次いで、「教育費が増えた」が2割台でした。



※その他では「光熱費の増加」「年金額の減少」などが挙げられました。

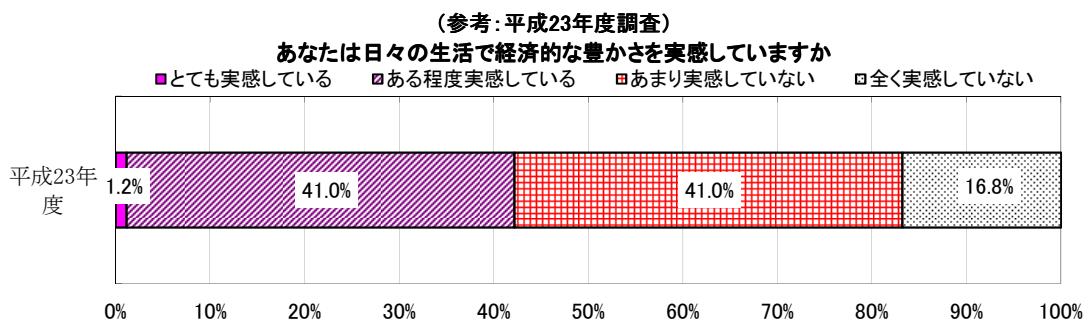
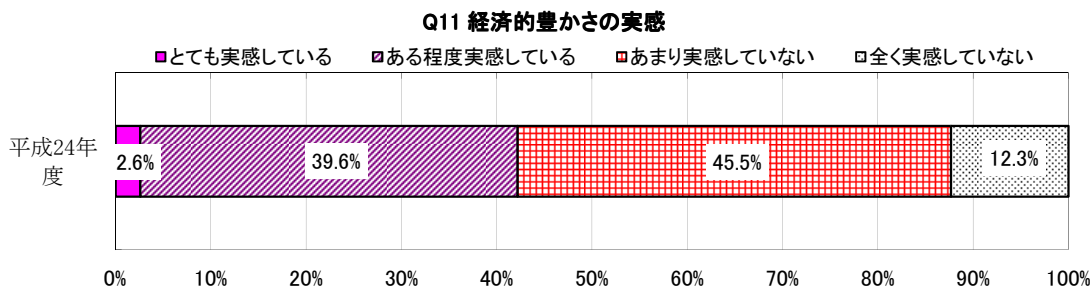
Q10 苦しくなったことへの対策

Q7で「苦しくなった」と回答した61名に、講じた対策をたずねたところ、「むだを省き、買ったものは最後まで使うようにした」が約2割で最も多く、「生活内容を切り詰め、購入したいものを諦めた」「預金を取りくずした」と続きました。



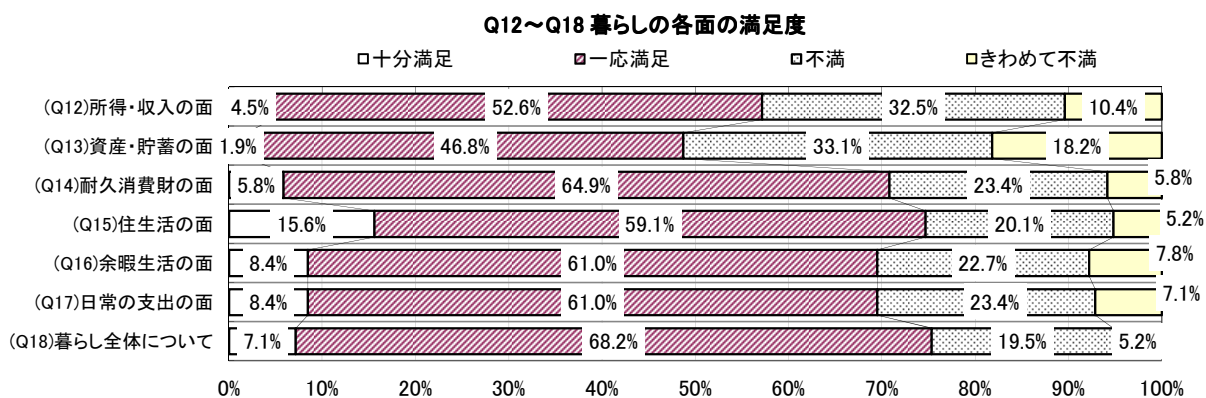
Q11 経済的豊かさの実感

日々の生活で経済的な豊かさを実感しているかたずねたところ、前年度と同様、「あまり実感していない」と「全く実感していない」の合計で半分以上を占めています。



Q12～Q18 暮らしの各面の満足度

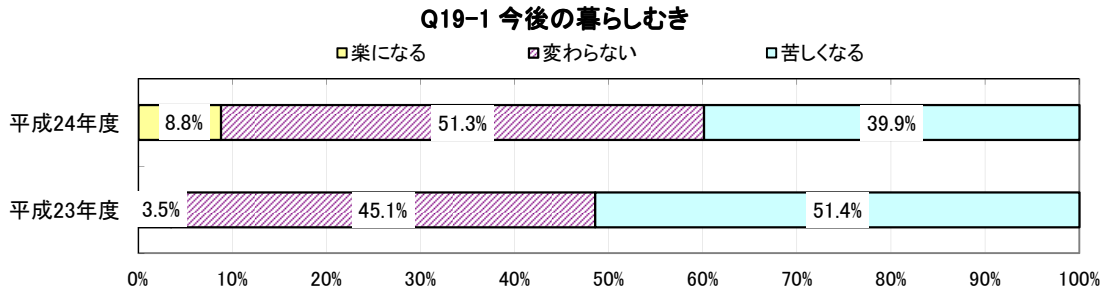
「暮らし全体について」の満足度が、「十分満足」と「一応満足」の合計で7割を超えました。項目別では、「資産・貯蓄の面」で「一応満足」が5割を切るとともに、「きわめて不満」が2割近くに達しており、経済面に関する満足度が低くなっています。



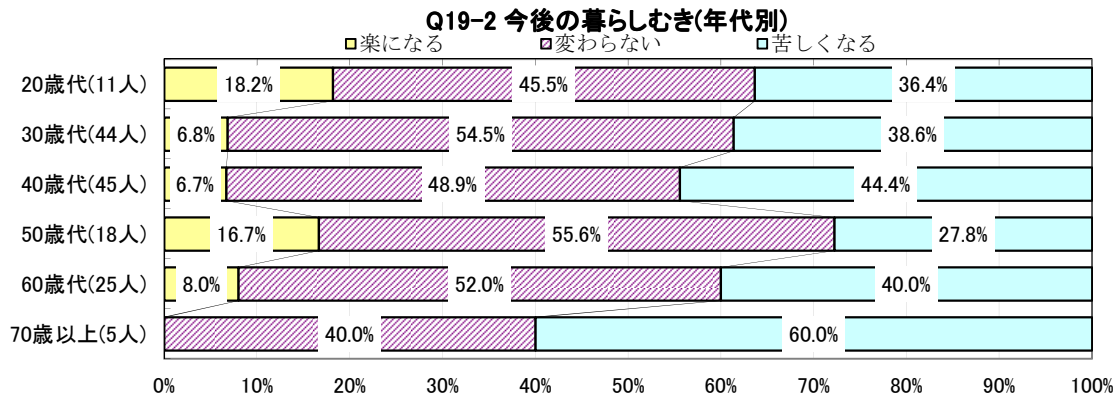
<アンケート後半>:回答者148名

Q19 今後の暮らしむき

今後の暮らしむきの見通しについては、「変わらない」が5割台で最も多い回答でした。平成23年度と比較すると、「苦しくなる」が約1割減少して約4割となっており、今後暮らしむきが改善されると考えている人が増えていることが見受けられました。



年代別に見ると、70歳以上を除いた各年代で「変わらない」が5割前後と最も多くなっています。70歳以上では「苦しくなる」が6割を超えている点が目立ちました。



Q20～Q22 「Q19」の回答理由

Q19で回答した理由をそれぞれたずねたところ、以下のとおりでした。(自由記入、要約・抜粋)
「楽になる」と回答した人も、特に女性で新たに就職する人や、パートの時間を増やすなど、収入増のための取組みを行う人が目立ちました。

<回答＝楽になる> 8.8%

- * 子供が就職する、教育費がかかなくなるため
- * 収入の増加が見込めるため
- * 自分も仕事を始める、パートの時間を増やすため
- * 親の遺産が入ったため
- * 景気が良くなっているため

<回答＝変わらない> 51.3%

- * 仕事・収入に変化がないため
- * 家庭の状況(子供の教育費など)に変化がないため
- * 収入は増えるが、支出も増えるため(教育費、家財の交換費用、物価上昇など)
- * 年金額が変わらないため
- * 収入に関係なく、日ごろから節約して生活しているため

<回答＝苦しくなる> 39.9%

- * 教育費が増えるため(25件)
- * 消費税、所得税が増えるため(18件)
- * 給与が減額する、仕事が決まらないため
- * 物価が上昇するため
- * 年金が減額になるため
- * 社会保険料(介護保険料など)が増えるため

3. 物価と家計について

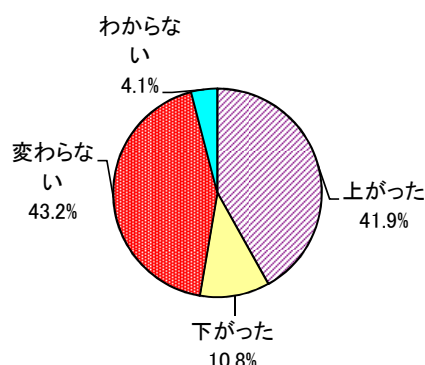
Q23 物価の上昇感・下落感

この1年間の物価についてどのように感じているかについては、「変わらない」と「上がった」が共に4割台でした。

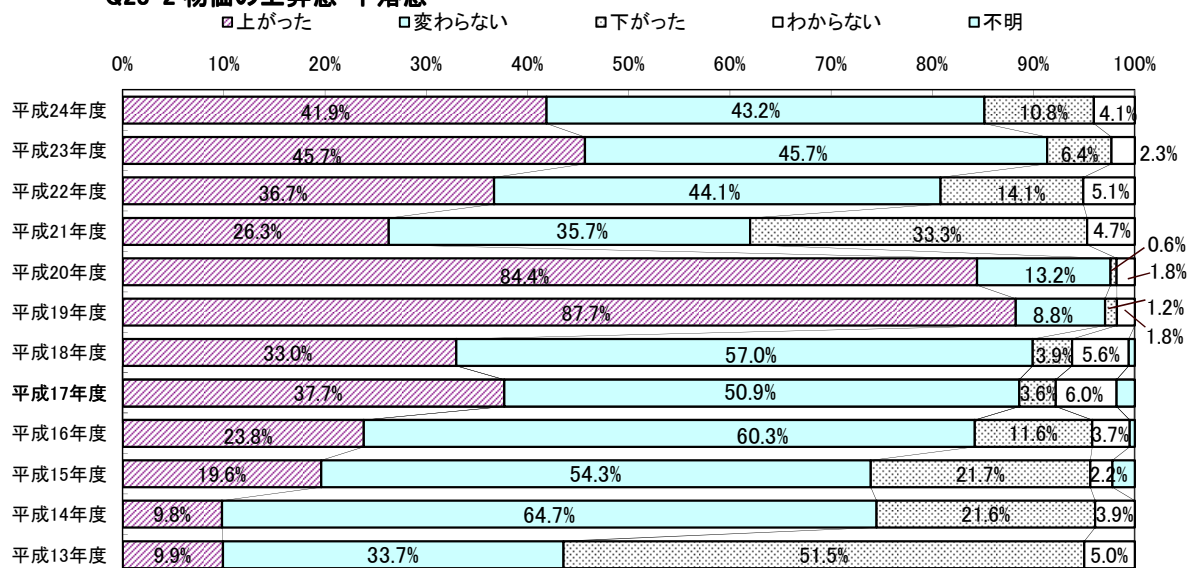
平成23年度と比較すると「上がった」がわずかに減少し、「下がった」が6.4%から10.8%に増えています。10年前（平成14年度）と比較してみると、「上がった」は4倍以上となっています。

また、平成16年度以降では、平成21年度を除いて毎年「上がった」が「下がった」を上回っています。

Q23-1 物価の上昇感・下落感



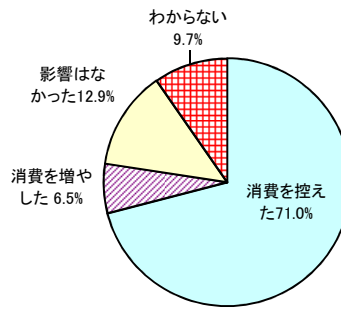
Q23-2 物価の上昇感・下落感



Q24 物価上昇の影響

Q23で「上がった」と回答した62名に、家庭の消費傾向への影響をたずねたところ、「消費を控えた」が7割を超えました。

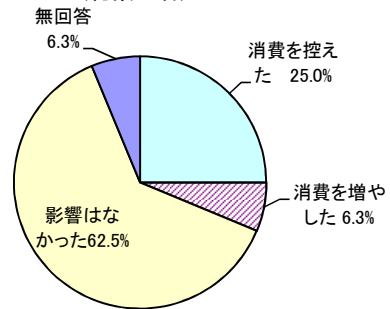
Q24 物価上昇による消費傾向
(総数62名)



Q25 物価下落の影響

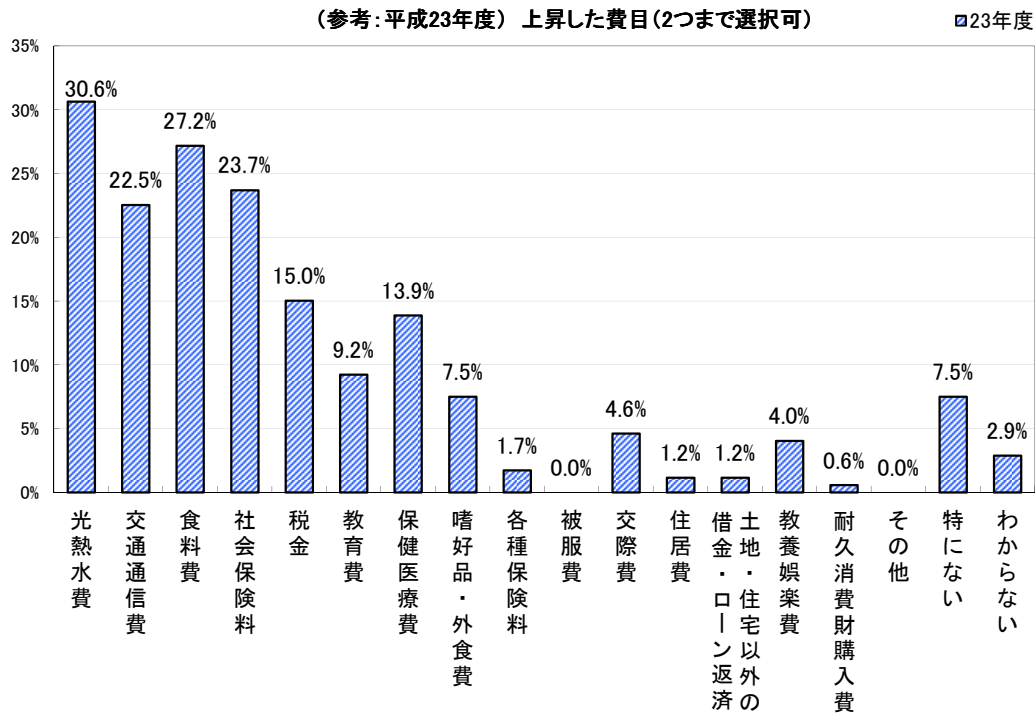
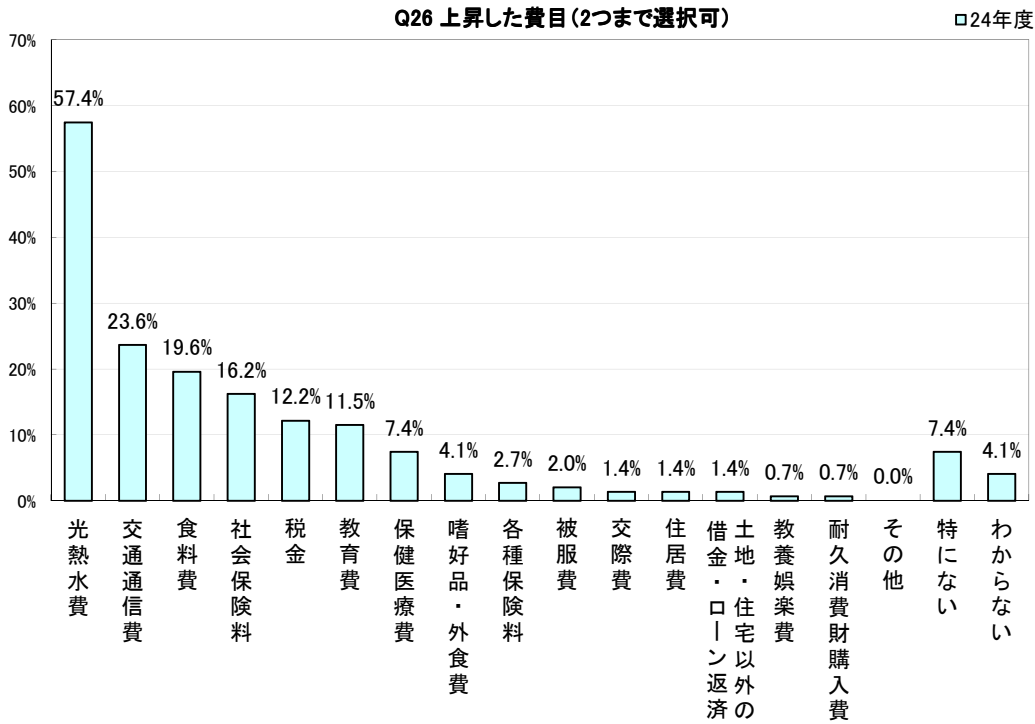
Q23で「下がった」と回答した16名に、家庭の消費傾向への影響をたずねたところ、「影響はなかった」が6割を超えました。

Q25 物価下落による消費傾向
(総数16名)



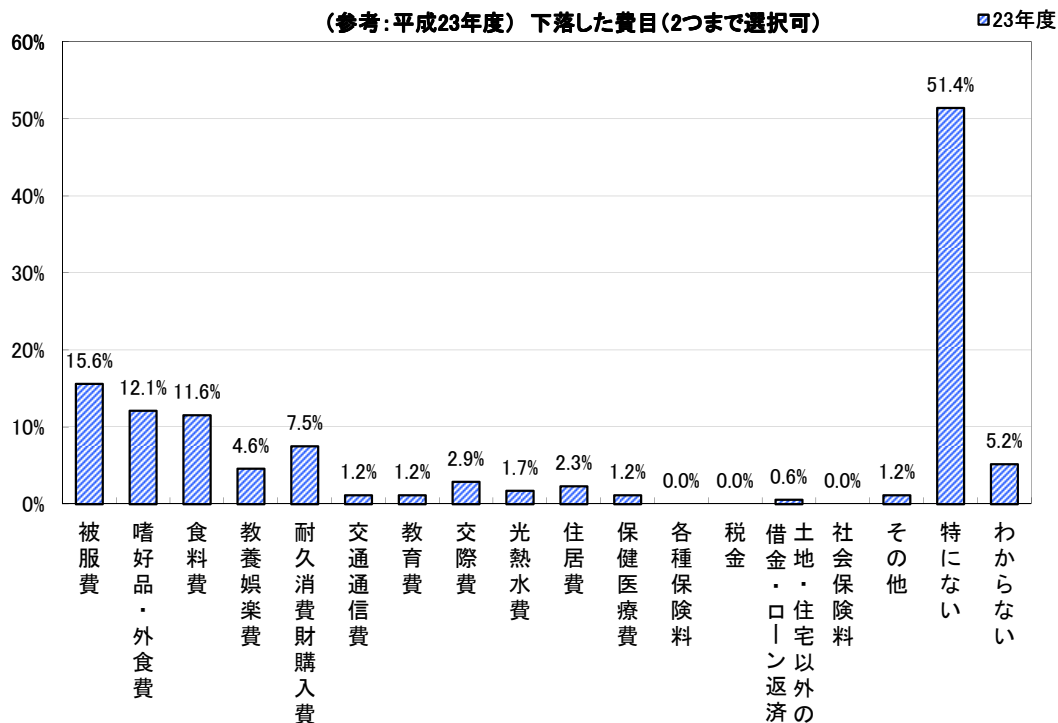
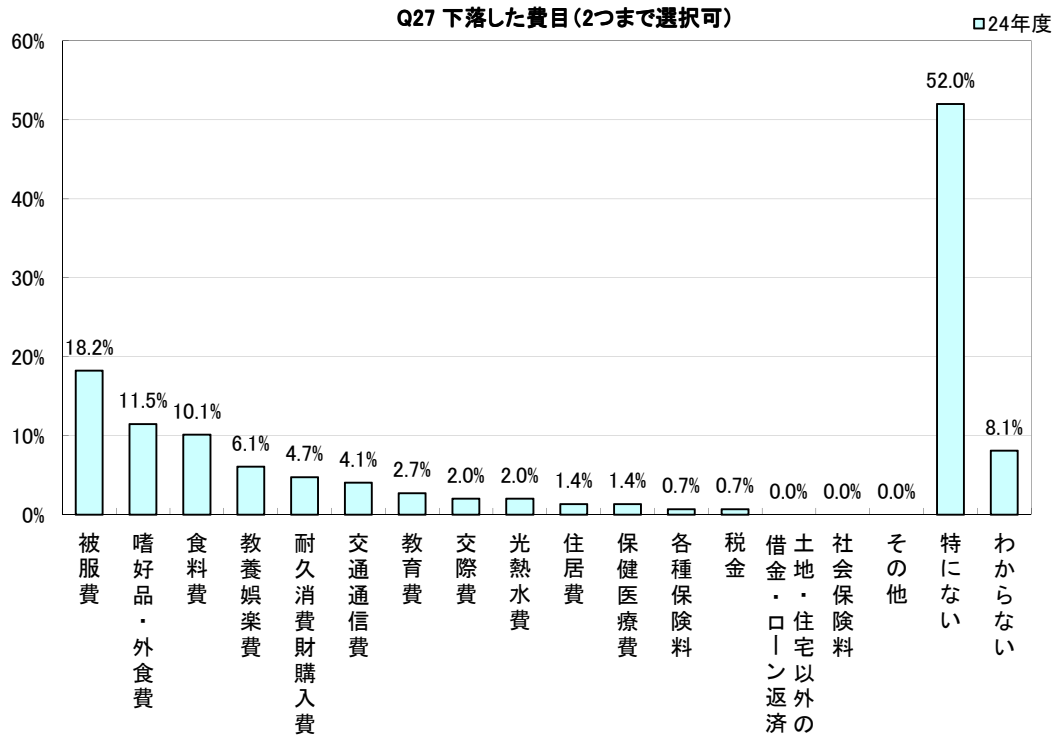
Q26 上昇した費目

この1年間の物価について、どの費目で特に上がったと思うかについては、「光熱水費」が6割近くに達し、平成23年度からほぼ倍増しています。以下「交通通信費」「食料費」「社会保険料」「税金」と続きました。



Q27 下落した費目

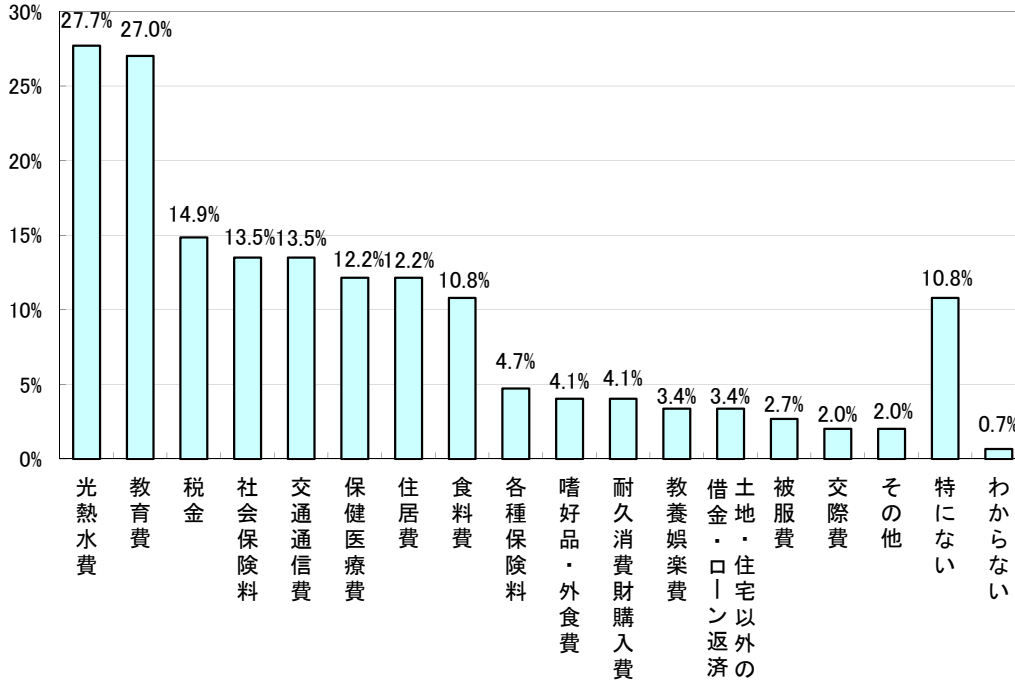
この1年間の物価について、どの費目で特に下がったと思うかについては、「特にない」が5割を超えて最も多く、「被服費」「嗜好品・外食費」「食料費」と続き、上位費目は平成23年度と同じでした。



Q28 家計を圧迫している費目

支出面で、特に増えて家計を圧迫している費目については、「光熱水費」と「教育費」が共に3割近くに達しています。

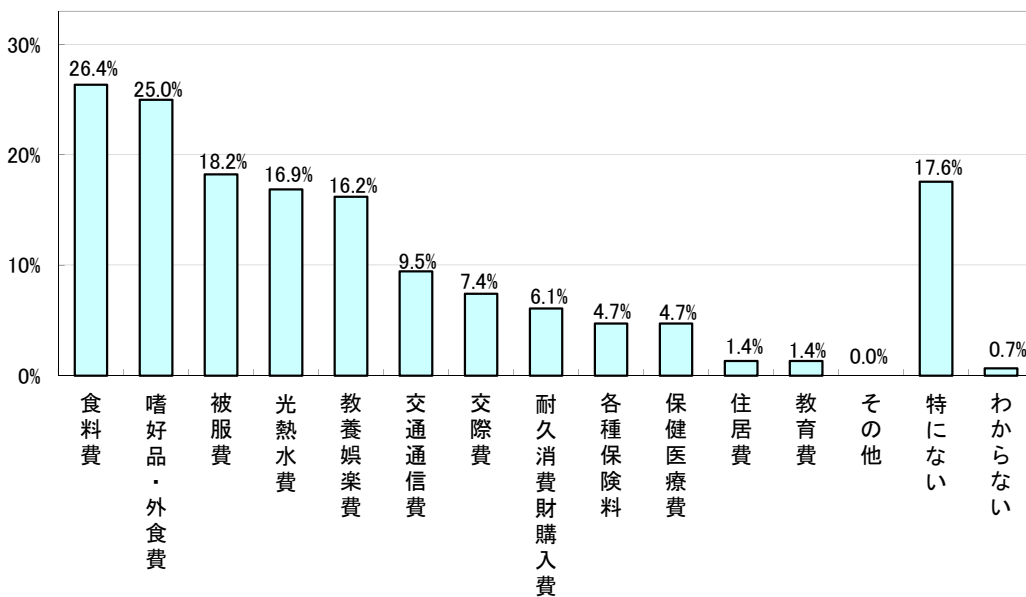
Q28 家計を圧迫している費目(2つまで回答可)



Q29 切り詰めた費目

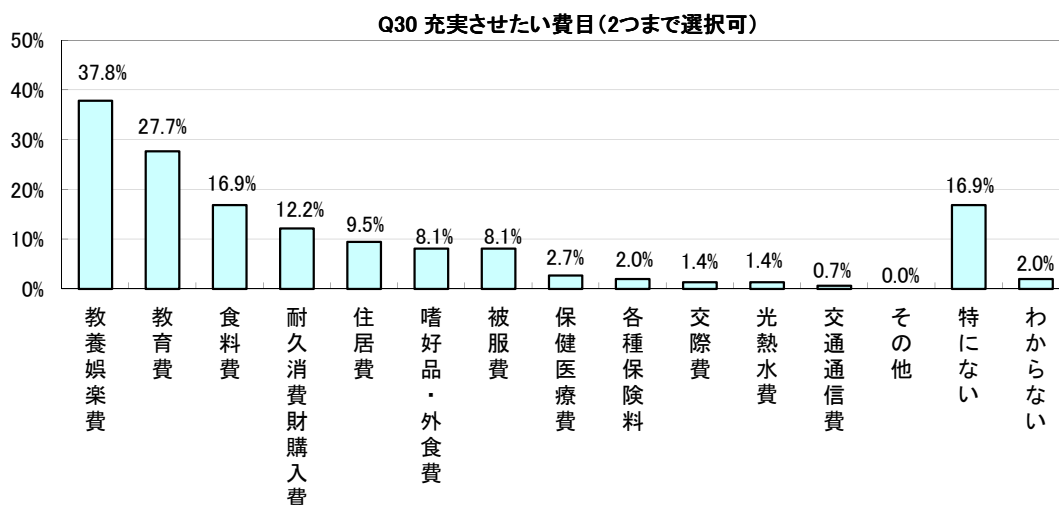
支出面で、特に家計で切り詰めた費目については、「食料費」と「嗜好品・外食費」がほぼ同率で2割台となり、以下「被服費」「光熱水費」「教養娯楽費」と続きました。

Q29 切り詰めた費目(2つまで選択可)



Q30 充実させたい費目

今後、支出面で充実していきたいと思う費目については、平成23年度と同様に、「教養娯楽費」が4割弱で最も多く、次いで「教育費」が3割弱、「食料費」と続きました。



Q31 充実させたい費目に関する考え(自由記入)

～抜粋・要約～

Q30で充実させたいと回答した費目についての考えを聞いたところ、以下のとおりでした。(自由記入、抜粋・要約)

教養娯楽費 37.8%

- * 家族と旅行に行くなどして余暇を充実させたい
- * 将来役にたつ資格を取得したい
- * スポーツなどの習い事をしたい
- * 趣味に費やす時間や費用をふやすことで、豊かな生活をしたい

教育費 27.7%

- * 子供の興味のある習い事をさせて、色々な経験をさせたい
- * 子供が進学するので、塾代や受験費にお金がかかる
- * 子供の将来のために、教育費は節約したいとは思わない

食料費 16.9%

- * 食料費は生活の基盤なので充実させたい
- * なるべく国産の食品を選びたい
- * 野菜や魚中心の健康的な食生活をおくりたい

耐久消費財購入費 12.2%

- * 耐久年数をこえるので、製品を買い換えたい
- * ローンを完済したので、それまで我慢していたものを購入したい
- * 省エネ家電に買い換えたい
- * 消費税が上がる前に、製品を買い換えたい

住居費 9.5%

- * 新しい住居に移りたい
- * 住居で壊れている部分が出てきているのでリフォームしたい
- * 住宅ローンを早く完済したい
- * 繰上げ返済をしたい

嗜好品・外食費 8.1%

- * すこし贅沢をしたい
- * 外食を充実させたい

被服費 8.1%

- * 子供の洋服は好きなものを買ってあげたい
- * 長く使える品をそろえたい

保健医療費 2.7%

- * 健康を維持するためには、医療費は惜しまない

各種保険料 2.0%

交際費 1.4%

光熱水費 1.4%

交通通信費 0.7%

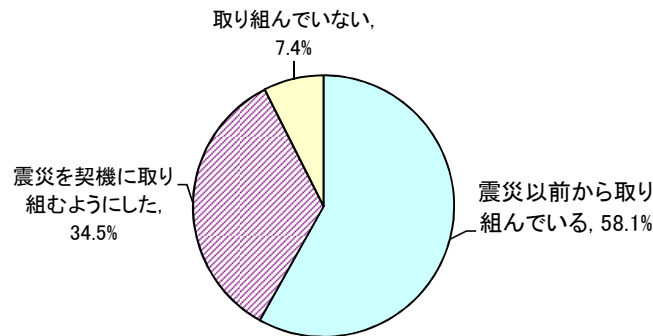
特にない 16.9%

わからない 2.0%

Q32 節電に取り組んでいるか

節電に取り組んでいるかたずねたところ、「震災以前から取り組んでいる」が約6割で最も多く、次いで「震災を契機に取り組むようにした」が3割台でした。これらを合わせると9割以上となり、ほとんどの人が節電に取り組んでいることが分かりました。

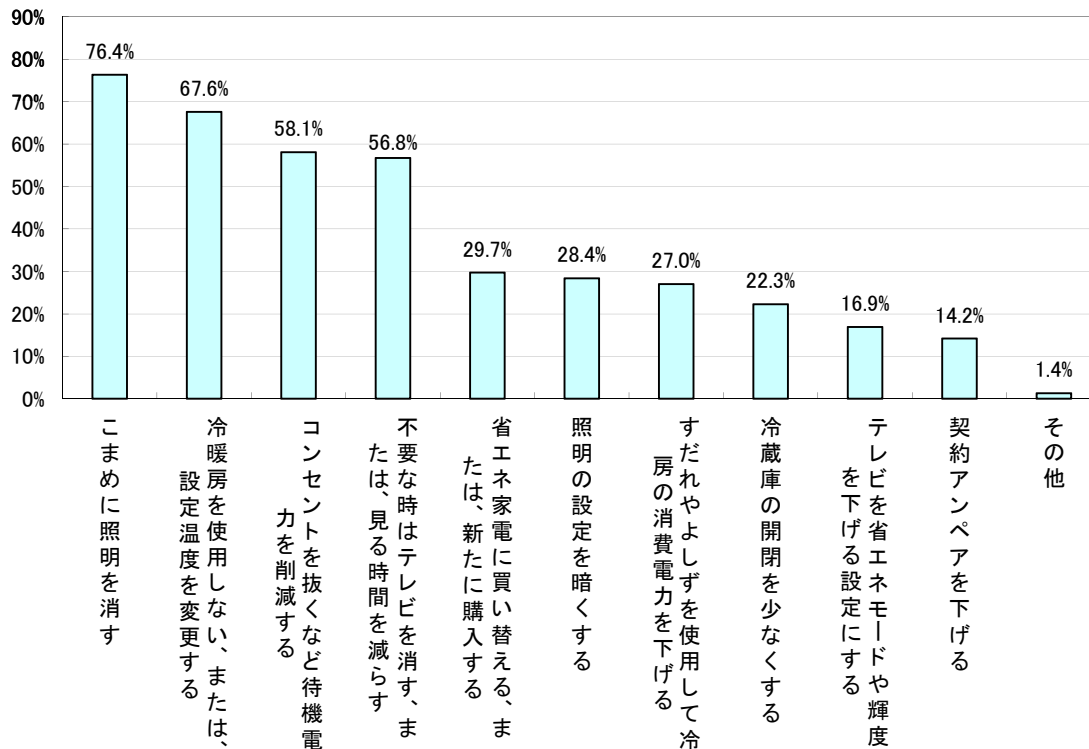
Q32 節電に取り組んでいるか



Q33 節電について具体的にどのような取り組みをしているか

Q32で節電に取り組んでいると回答した137名に節電の取り組みについてたずねたところ、「こまめに照明を消す」が7割を超え、最も多い回答でした。以下、「冷暖房を使用しない、または、設定温度を変更する」「コンセントを抜くなど待機電力を削減する」「不要な時はテレビを消す、または、見る時間を減らす」と続き、身の周りで手軽に出来ることから取り組んでいる様子が見られました。

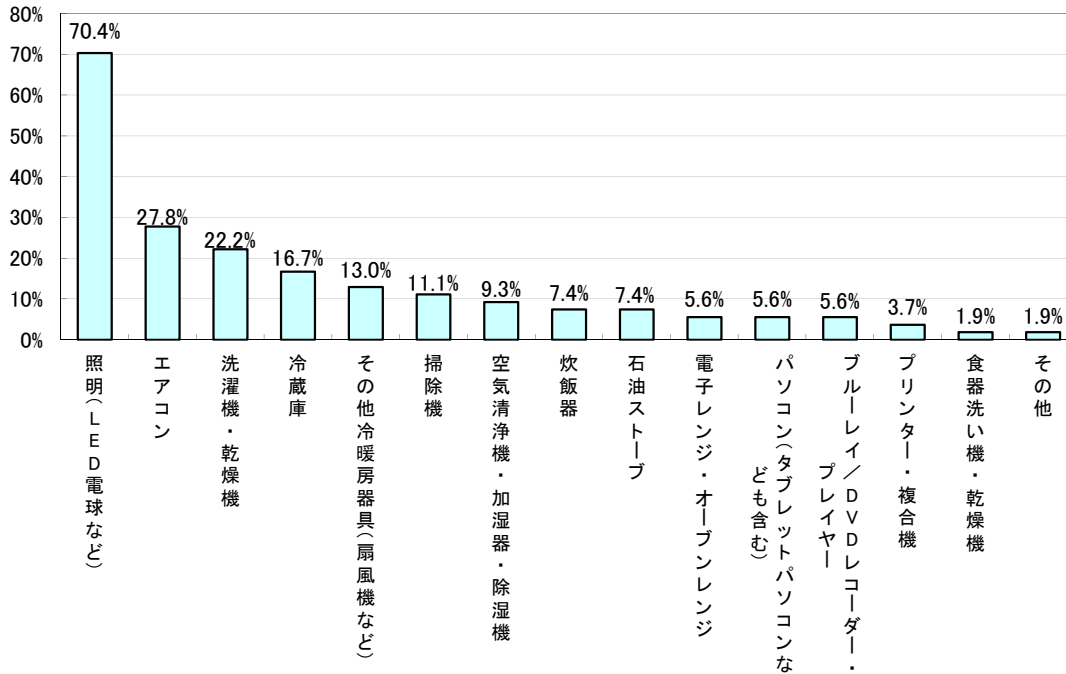
Q33 節電について具体的にどのような取り組みをしているか（複数選択可）



Q34 何を省エネ家電に買い替えた、または、新たに購入したか

Q33で「省エネ家電に買い替える、または、新たに購入する」と回答した44名に、何を買い替え・新たに購入したかたずねたところ、「照明（LED電球など）」が7割を超えて突出していました。以下、「エアコン」「洗濯機・乾燥機」と続きました。

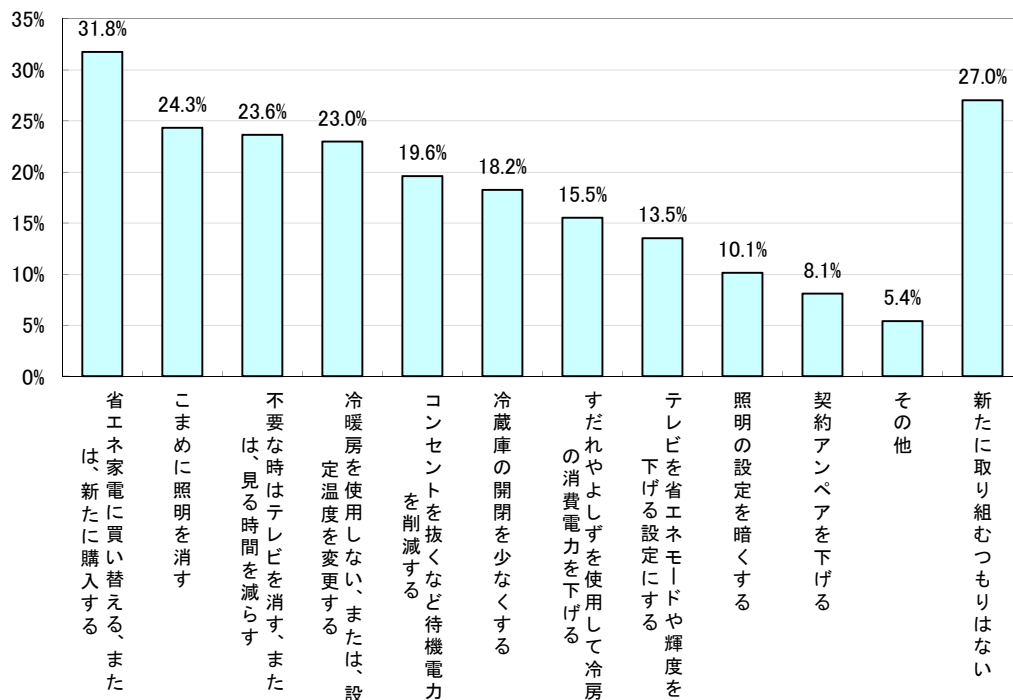
Q34 何を省エネ家電に買い替えた、または、新たに購入したか（複数選択可）



Q35 これから新たに取組もうとしている節電方法は何か（複数回答可）

これから新たに取組もうとしている節電方法は、「省エネ家電に買い替える、または、新たに購入する」が3割を超えて最も多い回答でした。以下、「こまめに照明を消す」「不要な時はテレビを消す、または、見る時間を減らす」「冷暖房を使用しない、または、設定温度を変更する」と続きました。

Q35 これから新たに取組もうとしている節電方法は何か（複数選択可）

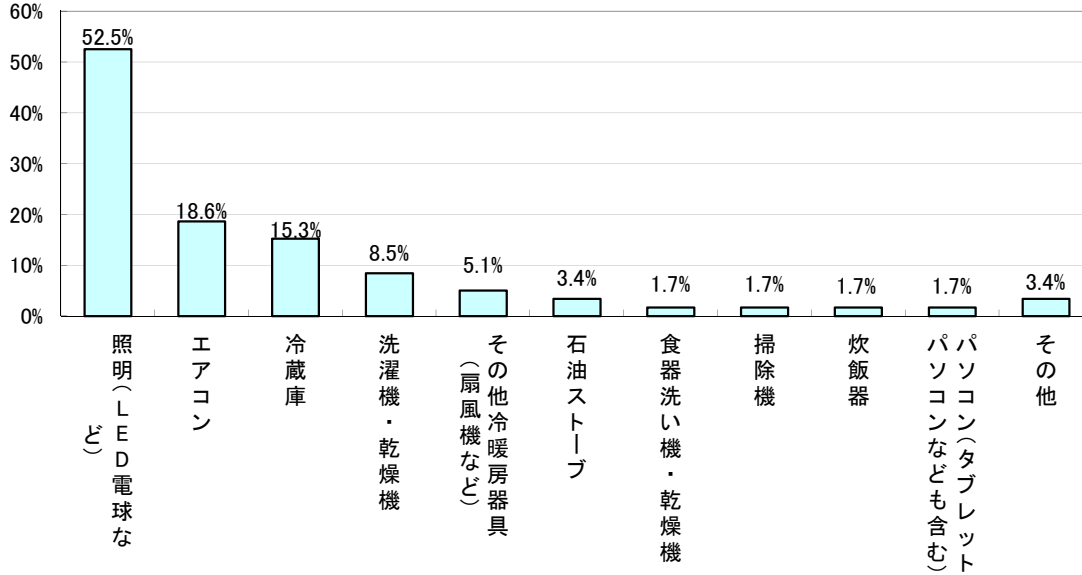


※その他では「床・壁の断熱設備の設置」「カーテンの設置」「他にできることがあれば、取り組む」などが挙げられました。

Q36 何を省エネ家電に買い替える、または、新たに購入する予定か

Q35で「省エネ家電に買い替える、または、新たに購入する」と回答した47名に、何を買い替え・新たに購入するかたずねたところ、「照明（LED電球など）」が5割を超えて最も多く、Q34と同様の傾向となりました。

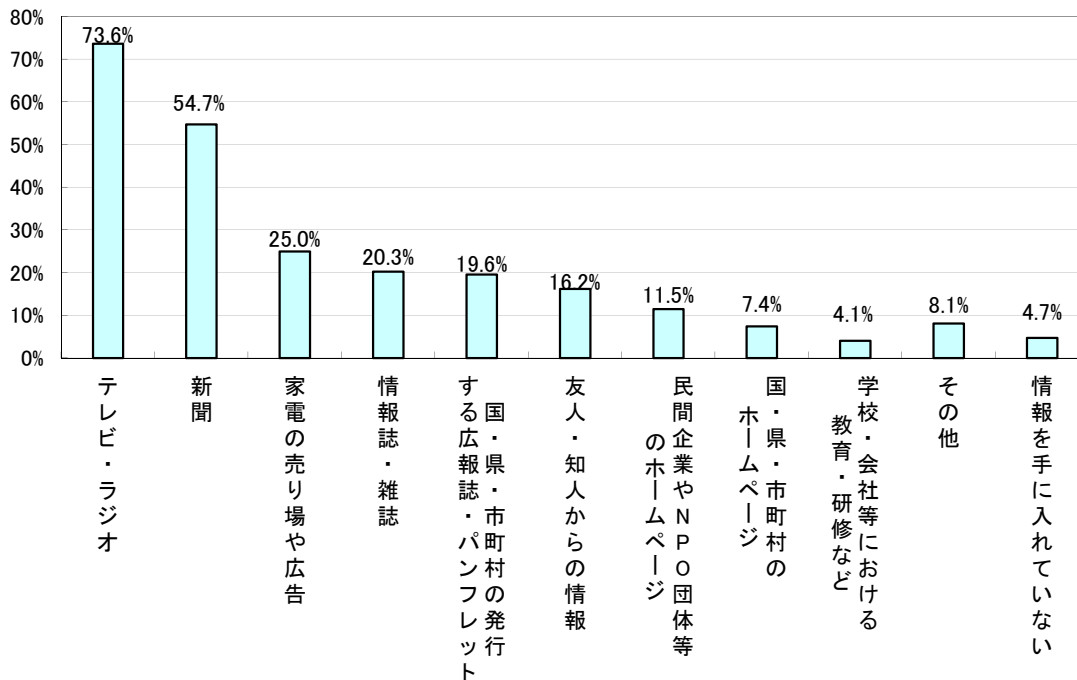
Q36 何を省エネ家電に買い替える、または、新たに購入する予定か（複数選択可）



Q37 節電に関する情報をどこで手に入れているか

節電に関する情報をどこで手に入れているかたずねたところ、「テレビ・ラジオ」が7割を超えて最も多く、次いで「新聞」が5割台でした。「その他」では、「インターネットのニュースサイト・検索」が多く挙げられました。

Q37 節電に関する情報をどこで手に入れているか（複数選択可）



※その他では「インターネットのニュースサイト・検索」「家族」などが挙げられました。

Q38 「暮らしむき」「物価と家計」「節電」に関して

「暮らしむき」や「物価と家計」「節電」について日頃感じていることをたずねたところ、以下のとおりでした。（自由記入、抜粋・要約）

【暮らし全般】

収入は大きく増えないので、無駄な消費を抑えたい。
医療費がかからないように健康的な生活を送りたい。
景気が良くなっていると感じないので、節約して過ごしたい。
くらしが苦しくなっても、工夫してエコで楽しいくらしをしていきたい。
良い仕事が見つからず、安定した生活が送れない。

【物価】

電気代の値上がりは、生活に影響が大きい。電力会社の企業努力を求める。
ガソリン代の値上がりで生活が苦しくなった。
野菜などの食品の値上がりによって食費がかさむ。
日用品の安売りがなくなったように感じる。
物価の上昇によって、節約する人が増え、物が売れなくなるのは悪循環である。

【税金・社会保険料】

消費税が上がるので、今後の生活が不安である。
税金の面では、低所得者が優遇されすぎているのでは。
税金や社会保険料など生活で削れない部分の費用が増えるので、生活が苦しい。
年金の問題などで、老後の生活に不安がある。

【教育】

教育費によって、生活に負担がかかっている。特に中高生の子供はお金がかかる。
子育てを支援する自治体の取り組みが充実していると助かる。

【節電】

省エネ機器を使う、不要な電気を消すなど節電に取り組んでいる。
家族と協力して節電し、負担にならない程度に頑張りたい。
最近節電の意識が薄れてきているので、見直していきたい。
一人ひとりの自覚と取り組みが大切である。
節約やエコは、考え方によっては楽しい。
街中の店舗などで電気が無駄に使われているように感じる。
節電しても電気代が値上がりするので不満だ。
節電によって、どのような効果があるのかが分からない。
節電の効果について、指標を示してほしい。
節電のしすぎは社会にとってよくない。電気を使う人は合理的に使うべき。
国や自治体が支援して、再生可能エネルギーの普及を図るべき。
神奈川県ソーラー計画について現在の状況を知りたい。

【その他】

生活保護費の問題を解決してほしい。

第3章 まとめ

1. 回答者の属性

回答者自身を含む同居家族数は、「4人」が30.5%と最も多く、次いで「2人」が29.2%、「3人」が24.0%でした。また、世帯構成は、「2世代同居家族」が59.7%で最も多く、次いで「夫婦世帯」が27.9%、「単身世帯」「3世代同居家族」は10%未満でした。

世帯主の職業は、「会社員・公務員」が68.2%で最も多く、次いで「無職」が20.1%でした。また、世帯主以外に収入を得ている人がいる世帯は51.9%で、その人の職業は、「パート・アルバイト」が45.8%、「会社員・公務員」が36.2%でした。

家庭の年収は、「600～700万未満」が16.9%で最も多く、次いで「300万未満」が14.9%、「700～800万未満」は11.7%となりました。

2. 暮らしむきと生活意識

・現在の暮らしむき

昨年と同時期と比べてご家族の暮らしむきがどうなったかたずねたところ、「変わらない」が5割台で最も多い回答でした。一方で「苦しくなった」も約4割でしたが、平成23年度と比べ1割以上減少しました。また、年代が上がるにつれ、「苦しくなった」の割合が減っていく傾向が見られましたが、70歳以上と20歳代で「苦しくなった」が6割台と高く、「楽になった」を上回っており、若者の就職難や、高齢者の暮らしむきが懸念されます。

「楽になった」と回答したのは8名でしたが、理由は「収入が増えた（給料が上がったなど）」「一時的に大きな収入があった」「借金やローンの返済が終わった」などが挙げられました。「苦しくなった」と回答した61名の理由は、「収入が減った、伸びなかった」が3割台で最も多く、次いで、「教育費が増えた」が2割台でした。また、「苦しくなった」と回答した方の講じた対策は、「むだを省き、買ったものは最後まで使うようにした」が約2割で最も多く、「生活内容を切り詰め、購入したいものを諦めた」「預金を取りくずした」と続けました。

日々の生活で経済的な豊かさを実感しているかたずねたところ、「あまり実感していない」が45.5%と平成23年度より若干増加しました。「全く実感していない」を加えると、平成23年度と同様に、経済的豊かさを実感していない人が半分以上を占めています。

暮らしの各面での満足度は、「暮らし全体について」で「十分満足」と「一応満足」を合わせた比率が、7割を超える結果となりました。一方で、「資産・貯蓄の面」では「一応満足」が5割を下回るとともに、「きわめて不満」が2割近くに達しており、経済面に関する満足度が他より低くなっていました。

・今後の暮らしむき

今後の暮らしむきの見通しについては、「変わらない」が5割台で最も多い回答でした。平成23年度と比較すると、「苦しくなる」が約1割減少して約4割となっており、今後暮らしむきが改善されると考えている人が増えていることが見受けられました。

また、年代別に見ると、70歳以上を除いた各年代で「変わらない」が5割前後で最も多い回答でしたが、70歳以上では「苦しくなる」が6割を占めており、Q7-2の結果とあわせると、現在も苦しく、今後も苦しくなる割合が高いことが懸念されます。

なお、それぞれの理由としては次のようなものが挙げられました。

「楽になる」理由 : 子どもが就職するため、給与の増加が見込めるため

自分も仕事をはじめため、パートの時間を増やすため

「変わらない」理由 : 仕事・収入に変化がないため、家庭の状況に変化がないため、収入は増えるが教育費などの支出も増えるため

「苦しくなる」理由 : 教育費が増えるため、消費税・所得税が増えるため、給与が減額するため、物価が上昇するため

「楽になる」と回答した人も、特に女性で新たに就職する人や、パートの時間を増やすなど、収入増のための取組みを行う人が目立ちました。

・物価

この1年間の物価についてどのように感じているかたずねたところ、「変わらない」と「上がった」が共に4割台でした。平成23年度と比較すると「上がった」がわずかに減少し、「下がった」が平成23年度の6.4%から10.8%に増えています。なお、10年前（平成14年度）と比較してみると、「上がった」は4倍以上となっています。

また、平成16年度以降では、平成21年度を除いて毎年「上がった」が「下がった」を上回って

います。

なお、「上がった」と回答した方の消費傾向は、「消費を控えた」が7割を超えていました。

「下がった」と回答した方の消費傾向は、「影響はなかった」が6割を超えていました。

この1年間の物価について、どの費目で特に上がったと思うかたずねたところ、「光熱水費」が6割近くに達し平成23年度からほぼ倍増しています。以下「交通通信費」「食料費」「社会保険料」「税金」と続きました。

この1年間の物価について、どの費目で特に下がったと思うかたずねたところ、「特にない」が5割を超えて最も多く、「被服費」「嗜好品・外食費」「食料費」と続き、上位費目は平成23年度と同じでした。

・家計において、圧迫・切り詰めた・充実させたい費目

支出面で、特に増えて家計を圧迫している費目については、「光熱水費」と「教育費」が共に3割近くに達しています。

家計で切り詰めた費目については、「食料費」と「嗜好品・外食費」がほぼ同率で2割台となり、以下に「被服費」「光熱水費」「教養娯楽費」と続きました。

一方、今後、支出面で充実していきたいと思う費目については、平成23年度と同様に、「教養娯楽費」が4割弱と最も多く、次いで「教育費」が3割弱、「食料費」と続きました。充実させたい費目の内容は、「教養娯楽費」では「旅行など余暇を充実させたい」「役に立つ資格を取得したい」など、「教育費」では、「子どもに習い事をさせたい」「塾代・受験費にお金がかかる」「子どもの将来のために、教育費は節約したいとは思わない」などが挙げられました。

「教育費」については家計を圧迫しているのにもかかわらず(Q28)、切り詰めた費目では1.4%で下位となっており(Q29)、さらに充実させたい費目の上位となっており(Q30)、暮らしの中での優先順位が高くなっていることがうかがえます。

・節電

節電に取り組んでいるかたずねたところ、「震災以前から取り組んでいる」が約6割で最も多く、次いで「震災を契機に取り組むようにした」が3割台でした。これらを合わせると9割以上となり、ほとんどの人が節電に取り組んでいることが分かりました。

節電の取り組みについては、「こまめに照明を消す」が7割を超え最も多い回答でした。以下、「冷暖房を使用しない、または、設定温度を変更する」「コンセントを抜くなど待機電力を削減する」「不要な時はテレビを消す、または、見る時間を減らす」と続き、身の周りで身近に出来ることから取り組んでいる様子が見えられました。

「省エネ家電に買い替える、または、新たに購入する」と回答した方の購入した品目は、「照明（LED電球など）」が7割を超えて突出していました。以下、「エアコン」「洗濯機・乾燥機」と続きました。

これから新たに取り組もうとしている節電方法は、「省エネ家電に買い替える、または、新たに購入する」が3割を超えて最も多い回答でした。以下、「こまめに照明を消す」「不要な時はテレビを消す、または、見る時間を減らす」「冷暖房を使用しない、または、設定温度を変更する」と続きました。

「省エネ家電に買い替える、または、新たに購入する」と回答した方の購入した品目は、「照明（LED電球など）」が5割を超えて最も多く、以下はQ34と同様の傾向となりました。

節電に関する情報の入手元は、「テレビ・ラジオ」が7割を超えて最も多く、次いで「新聞」が5割台でした。「その他」では、「インターネットのニュースサイト・検索」が多く挙げられました。「テレビ・ラジオ」に次いで「新聞」が挙げられおり、回答者の意識の高さがうかがえます。

3. 自由意見

自由意見として、89名の回答者から「暮らしむき」「物価と家計」「節電」に関する意見をいただきました。

暮らし全般については、「収入は大きく増えないので、無駄な消費を抑えたい」「医療費がかからないように健康的な生活を送りたい」など節約して生活していきたいという意見が多く見られました。

物価については、「電気代の値上がりは生活への影響が大きい」「ガソリン代の値上がりで生活が苦しくなった」など特に光熱水費の上昇に苦しんでいるという意見が多く見られました。

税金・社会保険料については、特に消費税増税への不安や、年金への不安を感じている方が多く見られました。

教育については、家計に負担をかけている一方で、「子供の興味のある習い事をさせて、色々な

経験をさせたい」「子供の将来のために、教育費は節約したいとは思わない」などの意見とともに、「子育てを支援する自治体の取り組みが充実していると助かる」など自治体の子育て支援策に期待する意見が見られました。

節電については、「家族と協力して節電に取り組みたい」「最近節電の意識が薄れているので、見直したい」「一人ひとりの自覚と取り組みが大切である」など節電について積極的な意見が多く見られました。一方で、「国や自治体が支援して再生可能エネルギーの普及を図るべき」「節電の効果について、指標を示してほしい」など施策に関する意見もありました。

[参考]

自由意見で、「神奈川県ソーラー計画についての現在の状況を知りたい」というご意見がありましたので、回答します。

神奈川県では、太陽光発電設備を安価で安心して県民の方に設置していただく「かながわソーラーバンクシステム」や、大規模太陽光発電所「メガソーラー」の設置などの事業を行っています。詳しくは下記の県ホームページ「かながわスマートエネルギー構想」をご覧ください。

URL:<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f300183/>